



ほやほやっうしん

## 03

ごあいさつ —— かまいしこども園の活動紹介と、子どもたちへの遊びのきっかけを盛り込んだフリーペーパー「ほやほや通信」第3号をお届けします。今号では、「ぐるぐるミックスin釜石」の現場をサポートいただいている@リアスNPOサポートセンターや釜石市民ホール TETTOの自主事業担当者をはじめとして、東日本大震災後の芸術文化を活用した支援事業をきっかけに生まれた、こども園と地域の人々のつながりを振り返ります。



- 02 座談会 | 点と点がつないだ縁 ～10年の軌跡を振り返る～  
川原康信さん・上野育恵さん（NPO法人@リアスNPOサポートセンター）  
× 阿部美香子さん（釜石市民ホール TETTO）× 藤原けいと園長（かまいしこども園）  
× 熊倉純子教授（東京藝術大学教授）× 渡邊梨恵子さん（一般社団法人 谷中のおかって）
- 04 かまいしこども園のうたの誕生のヒミツ  
「みらい」との通信 大西健太郎
- 06 子どもたちの応援団  
かまいしこども園の先生たち/いっしょに読んでみよう！  
生活がアート！～0歳児から学ぶこと～/りんめいさんのミックスクッキング/4コマ漫画
- 08 活動報告 | リモート版 ぐるぐるミックスレポート  
[年表] ASTT（東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業）  
をめぐる釜石・大槌との10年の歩み

# 点と点がつかないだ縁

～10年の軌跡を振り返る～



オンラインで一堂に会した参加者の皆さん

**川原康信さん・上野育恵さん**  
(NPO法人@リアスNPOサポートセンター)

×  
**阿部美香子さん**  
(釜石市民ホール TETTO)

×  
**藤原けいと園長**  
(かまいしこども園)

×  
**熊倉純子教授**  
(東京藝術大学教授)

×  
**渡邊梨恵子さん**  
(一般社団法人 谷中のおかって)



NPO法人 @リアスNPOサポートセンターは、2003年、商店街活性化の一環として岩手県釜石市にて設立。自分たちの手で地域が抱える問題を解決するために、住民、行政、地元企業、NPOなどが連携するプラットフォームづくりをサポートしている。震災以降の復興のプロセスを住民自ら記録に残すプロジェクト「復興カメラ」や、地域の復興住宅の巡回見守りも行うほか、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京と共催するArt Support Tohoku-Tokyo [東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業](ASTT)のプロジェクトをサポート。

**釜石市民ホール TETTO**  
東日本大震災で被災した釜石市民文化会館に代わる施設として建設された公共施設。市民の福祉の増進と文化の向上を図る

前号で紹介した「ぐるぐるミックスin釜石」は、2019年に、こども園を飛び出して、釜石市民ホール TETTOでも開催されました。こうした地域連携の文化プログラムは、東日本大震災後に生まれたさまざまな縁がつながって実現した活動です。その10年間の軌跡について、NPO法人@リアスNPOサポートセンターの川原康信さんと上野育恵さん、釜石市民ホールの阿部美香子さんを中心に、谷中のおかっての渡邊梨恵子さん、藤原けいと園長、そして各地で文化政策の提案を行っている東京藝術大学の熊倉純子教授も交えて、オンラインでの座談会を行っていただきました。

2021年2月24日 収録 聞き手・構成：小林英治

ため、にぎわい創出と文化芸術に関する活動を行う市民文化の総合支援拠点として、2017年12月にオープン。愛称のTETTO(テット)は、釜石と鉄の深いつながりを表す「鉄都」と、イタリア語で「屋根」を意味する「tetto」が語源となっている。

**熊倉純子**(くまくら・すみこ)  
東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授。バリ第十大学・バリ第一大学留学後、慶応義塾大学大学院文学研究科修士課程哲学専攻修了。企業メセナ協議会を経て、2002年より東京藝術大学音楽学部助教授、2016年より現職。アートマネジメントの専門人材を育成し、「取手アートプロジェクト」(茨城県取手市)、「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」(東京都足立区)など、地域型アートプロジェクトに学生たちと携わりながら、芸術と市民社会の関係を模索し、文化政策を提案している。ASTT事業として

は、2011年11月に「ひょっこりひょうたん塾」のゲストとして大槌を訪問。翌年は同事業におけるフィールドワーク演習のコーディネーターを務め、きむらとしようじんじんを招聘。「野点」の実施運営を通じてまちづくり人材の育成プログラムに取り組んだ。

一般社団法人 谷中のおかって  
東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科熊倉純子研究室(2008年当時)のゼミの一環として実践した、芸術表現を通じた地域社会へのアプローチの取組みを経て、2010年に設立。東京都台東区谷中地域を拠点に、各地でアートイベントの企画・運営・サポートを行う。2012年度よりASTT事業としてきむらとしようじんじんの「野点」の企画・運営をコーディネートし、2016年度より同事業としてかまいしこども園で実施する「ぐるぐるミックスin釜石」の企画・運営をコーディネートしている。

## 現場の内と外をつなぐ役割

——川原さんと上野さんは、「野点」や「ぐるぐるミックス」の現場をサポートしながらどんなことを感じていますか？

**川原** 最初に「野点」をやる時は、芸術云々ではなく単なるイベントとして考えていたので、じんじんさんは効率が悪いとか文句を言いながら手伝っていたんですけど(笑)、だんだん回を重ねるうちに、準備や片づけの時間も作品の一部というか、この作業や協働の時間が大切なんだと気づくようになりました。

**上野** 私は、2年目の釜石での「野点」に参加したのが最初で、その時がすごく心地よくて、一気にハマっていきました。こども園での「ぐるぐるミックス」も、最初は「これはどうなるかな？」と不安に思うこともありましたが、今は子どもたちもすぐのびのびして、それを見るのが毎回楽しくて、こども園に行くのが楽しみにしています。

**渡邊** 育恵さんは、「ぐるぐるミックス」では、最初は活動中のサポートをしてくださるところから、今はプログラムを実施するまでのプロセスで園の先生と私たちとを

つないでくださったり、先生方の相談役にもなったりと、いろんな役割を担ってくださっていますよね。

**上野** 関わる中で、先生たちの変化も見ていますし、子どもたちも「ぐるぐるミックス」の時は限定解除されてリフレッシュしている様子も見ていますので、すごく良い活動だなと思いますし、自分も成長させてもらっていると感じています。

**川原** 「ぐるぐるミックス」をTETTOでやった時は、子どもよりスタッフの人数の方が多き現場で、ボランティアスタッフの方たちがきちんと自分の役割を理解して、楽しそうに活動していたのが印象的でした。今はそういうことも含めて芸術なんだと感じるようになりましたし、みんなが楽しそうにしている姿を見るのが、裏方をやっていた一番嬉しいです。



子どもたちがTETTO館内に展示した「テットン」を紹介するツアーの様子 © Miho Kakuta

## 10年かけてつかないだバトン

**熊倉** 携われている皆さんにとって、「ぐるぐるミックス」とはどういう場所なのでしょう。

**園長** 毎回、「ぐるぐるミックス」はテーマがある中でプログラムを行うんですけど、子どもたち一人ひとりの取り組み方、遊び方はまったく違うんですよね。普通は、なかなかそこに入りこめない子とか、最初はやりたくないという子もいるんですけど、時間が経つにつれて、そういう子たちも不思議と遊びの中に入っていき。そういう姿を、すごく感動に近い思いで、私も担任の先生たちも見ていますし、そこが「ぐるぐるミックス」らしい良いところだと思います。

**熊倉** 特に日本の子どもは、大人の顔色をうかがうのが上手ですよね。アーティストが働きかけることで、ちょっと大人の存在を忘れて、本能的に自由になったりすると、無意識のうちに抑圧されているものが取れたりして、子どもなりに視界が開けたり、違うものが見えてくれたりすると思います。

**園長** 子どもはもちろんですけど、5年間継続してきたことが良かったのは、先生たちがだんだん慣れていって、テーマがある中でも自由にやっていいんだと、先生たちも気がついてきたことですね。

**渡邊** この2年ぐらいで現場の先生方

の反応がすごく変化しているのを、私たちも感じています。最初は講師のじんじんさんや大西から提案されたプログラムを一緒にやってみることからスタートしたんですけど、今は先生方が自分たちでプログラムを考えて、自分たちでぐるぐるの現場も、ファシリテーターもやってみようになってきていて、「このプログラムはこういう意図でやりたい」とか「こういうふうに遊びの魅力を手渡したいんだ」という意図が、はっきりと先生たちにあるのが感じられます。子どもたちがどんな反応や受け止め方をするのかは、日頃から子どもたちに接している先生方にしかわからないところがありますし、こちらも教わる部分もあって、相互のやり取りも充実してきていると思います。

**熊倉** 継続してやっていけば受け取っていただけるのではないかとすることは信じてはいたのですが、思ったより時間がかからず手渡すことができたようで、その様子が聞けて嬉しいです。

**阿部** 熊倉先生にアドバイスいただきたいのですが、もっとたくさんの人を巻き込むにはどうしたら良いのでしょうか？

**熊倉** 面的に一気に広げることを考えないで、焦らずに、1人ずつ点と点をつないでいってくださると嬉しいなと思います。どうしても効率が重視されたり、キャッチーなエ

## TETTOという文化支援の拠点

——阿部さんにかがいますが、TETTOという公共施設にとって文化事業が担う役割とは何でしょうか？

**阿部** 市民の皆さんの心を豊かにして、地域全体を暖める役目なのかなと思っています。毎回お客様アンケートを見ると、間違いなく文化や芸術が心を豊かにしているんだということを強く実感します。今はクラシックコンサートなど音楽の企画が多いですが、さまざまなジャンルの自主事業と、市民の方々に寄り添った貸館事業を通して、より多くの人に文化に触れる機会を与え、心で感じて、体に染み込んでいくような場が提供できればと思っています。参加する人たちが、いつの間にか文化に興味を持って、気づいたら担い手になっていたり、ギャラリーやホールで発表する側の人間になっていたら嬉しいです。

**渡邊** そういう意味では、美香子さん自身が、「野点」との出会いから担い手になった1人ですよね？

**阿部** そうなんです。2012年から関わっていたら、知らない間にこっち側になってたんです(笑)。

子どもたちがTETTO館内に展示した「テットン」を体験したことのある、こども園の卒園生が参加してくれたのも嬉しかったです。

——「ぐるぐるミックス」をTETTOで開催することにはどういう意図があったのでしょうか？

**阿部** TETTOで子どもたちの笑顔が見たかったからです。それと、「ぐるぐるミックス」を通して、身近な大人以外の多様な人たちに会って経験を広げることで、子どもたちにとって今後の選択肢が増えるきっかけになるといいなと思いました。最初にぐるぐるミックスのボランティアに行っていたのは、「ここには間違いというものはないんだな、子どもたちがやっていること全部が正解なんだ。すべてが受け入れられる社会だ」ということです。うまく言葉にするのは難しいんですけど……、とにかく心を感じるんですよ。それを体験して欲しいな。

**渡邊** TETTOの「ぐるぐるミックス」では、全館を使用させてもらって、ぐるぐるミックス史上一番規模の大きい贅沢な回になりました。TETTOのプロの照明さんや舞台のスタッフのみなさんにも協力していただき、@リアスの川原さんと育恵さん、「野点」で出会った方々、こども園の先生たちもスタッフとして参加してくれました。「ぐるぐるミックス」を体験したことのある、こども園の卒園生が参加してくれたのも嬉しかったです。

## 2011年秋の出会いから始まった

——まずは@リアスNPOサポートセンターの川原さんと釜石市民ホールの阿部さんに、かまいしこども園やぐるぐるミックスとの関わりをお聞かせください。

**川原** 2011年の7月に釜石と大槌にいらしたアーツカウンシル東京の方たちと釜石市役所を介して知りあい、ASTT(東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業)をご一緒することになりました。当初は私も忙しくて、初年度は年度末に大槌町の中央公民館で開催したシンポジウムに行って、そ

こできむらとしようじんじんさんと熊倉先生とお茶を飲んだ記憶があります。翌年からじんじんさんが大槌と釜石でやった「野点」[\*1]を手伝いながら、4年目にアーツカウンシル東京の森司さんから、じんじんさんが関わっている「ぐるぐるミックス」というこども創作教室を谷中のおかっての皆さんが東京でやっていて、熊倉先生もその立ち上げに関わっているという話をうかがいました。それをかまいしこども園でもできなかなと相談させていただき、2016年度

\*1 アーティストのきむらとしようじんじんが1995年より行っている、その土地の、その日そのときの風景の中でお茶を楽しむことができる移動式陶芸お抹茶屋台。各地の「路上」で開催場所を探すところから始まる具体的な人との出会いとやりとりの積み重ねが、一期一会の場と風景を生み出す。



釜石市大町青葉通りで行った野点(2013年10月6日) © Ayaka Umeda

\*2 オリジナルの紙芝居を導入し、まだ誰も知らない謎の生き物「TETTON(テットン)」を想像して、巨大な紙とテープを使って制作するプログラム「TETTON(テットン)たちがやってくる」を実施。大きな形も違う様々なテットンが誕生した後、子どもたちはTETTOの館内のお気に入りの場所を見つけて自分のテットンを展示し、館内を巡りながらみんなの作ったテットンを見たり、自分の作ったテットンを紹介しながら楽しんだ。



大ホールの舞台上思い思いの「テットン」を作る子どもたち(2019年1月14日) © Miho Kakuta

# かまいしこども園のうた の誕生のヒミツ

東日本大震災で被災した旧釜石保育園は、仮園舎での4年間の運営を経て、平成27年(2015)4月に現在の地で、かまいしこども園として新たなスタートを切ることになりました。そのさいに、在園児の保護者の皆さまから、新しい園歌に取り入れたい「未来の子どもたちに送るメッセージを込めたフレーズ」を募集しました。そして、「輝く」「未来」「希望」「虹」「笑顔」「元気」「友だち」「うた声」「やさしさ」「ありがとう」など、寄せられたたくさんの言葉を組み合わせて歌詞が作られました。作曲をしたのは、釜石在住の音楽家で旧釜石保育園の卒園児でもある山陰義史さんです。そのエピソードを知った大西健太郎(「ぐるぐるミックスin釜石」講師)が、かまいしこども園の歌を聴きながら、東京・谷中から子どもたちに向けてパフォーマンスを贈ります。

## かまいしこども園のうた

作詞・平成26年度 在園児保護者  
作曲・山陰義史

- 1 きらきらの みらいかがやく なないろにじの かけはし  
にこにこの えがおがさく ららら きぼうのうたごえ  
あおぞらをここに おおぞらをここに  
ラララ ハッピー スマイル
- 2 なかよしの ことりがあそぶ あかるいおひさまのひかり  
おともだちと てをつなごう ららら やさしさのきずな  
あおぞらをここに おおぞらをここに  
ラララ ハッピー スマイル
- 3 げんきな たのしいゆめ ありがとうのたねをまこう  
かもめも とぶよとぶよ ららら つよくすこやかに  
あおぞらをここに おおぞらをここに  
ラララ ハッピー スマイル

### 「みらい」との通信

「かまいしこども園のうた」は、2014年度在園児保護者の方々との合作だ。当時のお便りを見せてもらった。そこには、「未来の子どもたちに贈るメッセージを込めたフレーズ」を募りたいという園長先生からの文章と、保護者の方々の手書きの「語(ご)」が書かれていた。

そういえば、「語(ご)」は「かたり」とも読める。岩手のかたりと言えば、遠野の語り部が思い浮かぶ。初めて耳にした時、冒頭の「むかしあつたずもな」と締め「どんどはれ」を聞き取るのが精一杯で、肝心のお話はほとんどが未知の言語に聞こえた。それでも、「部屋の描写」「子どもの声」「暗闇のシーン」など、言葉の意味は分からなくても想像できる場所があった。時空を飛び越えた昔のことを話しているのに、何故か「いま、それを見て」気分がさせる。言葉が分からなくても、何かを想像させる力があって。

かまいしこども園のお便りに綴られた語(ご)を目にした時、遠野の語り部と通じるものがあった。お会いしたこともない方なのに、その人の文字の形、筆圧や線の流れを見ていると、時空を越えたところから心に何かが届いた。

この歌は、先生方からのお便りにもあったように「未来の子どもたちに」に向けて歌われている。未来の…というのは、卒園児たちが大人になった時のことか？ もしくは、園にかかわらず、時を越えてこの歌を耳にした・口ずさんだ人たちのことなのかもしれない。

私は「みらい= (未だ来ていないとき)」から届いた歌声に回答したいと思った。「いま、ここ」にはいない誰かに向けて。「会えない」誰かに向けて。遠く離れたところにいる誰かに向けて。



# 活動報告 リモート版 ぐるぐるミックス

2021年2月24日(水)～26日(金)

対象：ぞう組(5歳児) 講師：きむらとしろうじんじん / 大西健太郎  
担任：小笠原みなみ先生 / 岩淵理紗子先生

新型コロナウイルスの影響で、今年度は東京から「ぐるぐるミックス」の講師やスタッフがこども園を訪れることができませんでしたが、2月の最終週にぞう組(5歳児)を対象にリモート版の「ぐるぐるミックス」を開催しました。ホールのスクリーンに映し出されたじんじんさんとけんたろうさんとのやりとり慣れるように、3日連続で異なる小さなプログラムを実施しました。

## 1日目「自分シール」

裏に両面テープを貼った特製の画用紙にマーカーでお絵描きをし、その部分をハサミで切り抜いて、自分だけのシールを作りました。いちご、うさぎ、熊、てんとう虫、アニメのキャラクター、似顔絵、♡マークなど、色とりどりのオリジナルシールができ、シールを友だちと交換する子や、画面の向こうのけんたろうさんにプレゼントしてくれた子もいました。



## 3日目「帯紙あそび」

最終日は机と椅子を取り払い、ホールの床全体を使って活動。長さの異なる2種類の真っ白の帯紙を素材に、折ったり、切ったり、つないだりして、心のおもむくままに遊びをくり広げました。完成形の無いシンプルな作業だからこそ、手を動かしながら思いついたベクトルにどんどん方向転換したり、まわりを巻き込んで発展させたりすることができます。前日までより作業時間を長く確保したこともあり、子どもたちも好きなだけ作業や遊びに没頭することができました。釜石市民ホールTETTOの阿部さんと大槌文化交流センターおしゃっこの生利さんが手伝いに来てくれたほか、途中で園長先生や澤田先生も遊びに参加して、リモート開催を感じさせない「ぐるぐるミックス」らしい自由でのびやかな遊びの風景が立ち現れました。



## 2日目「みるポー」

用意した2種類の太さの紙筒に、色のついたビニールテープを巻き付けたり、昨日使ったシール用の画用紙の切れ端を利用して飾りを付けたりして、オリジナルの探検グッズ「みるポー」を作りました。後半は、けんたろうさんが東京から子どもたちに指令を出して、子どもたちは園の中にある赤いものを見つけたり、職員室を探検しに行ったりして、その結果を画面越しに報告しました。



## [年表] ASTT(東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業)をめぐる釜石・大槌との10年の歩み

★関係者たちによる座談会(P2-3)も合わせてお読みください。

<p><b>2011</b> 「ひよっこりひょうたん塾」 説明会・キックオフミーティング/ASTT事業 11.5-6 大槌町中央公民館図書室 大槌町の重要なシンボル「ひよっこりひょうたん島」を資源に、大槌の文化的価値を最大化し、復興段階における地域活性化や産業振興とその担い手の育成を目的とした事業「ひよっこりひょうたん塾」がASTT事業の一環としてスタート。熊倉純子先生がゲスト登壇。</p> <p>じんじんさんが釜石来訪 12.10-11 @リアス川原さんときむらとしろうじんじんさんが出会う。アーツカウンシル東京の森司さんと佐藤李青さん、熊倉先生も同行し、川原さんがまちを案内する。</p> <p><b>2012</b> じんじんさんと谷中のおかってが大槌来訪 2.16-17 じんじんさん、森さん、佐藤さん、熊倉先生と一緒に、谷中のおかってが初めて大槌を訪れる。この年から大槌での「野点」でお世話になる大念寺を初訪問。ひょうたん塾の事務局メンバーとも初めて会う。</p> <p>きむらとしろうじんじん「野点」/ASTT事業 9.27 常楽院(大槌町赤浜) 10.3 児童公園(大槌町桜木町) 10.7 大槌駅前広場(大槌町方地区) この年は「ひよっこりひょうたん塾」のフィールドワーク演習という位置づけで「野点」を実施(熊倉先生と谷中のおかってが演習をコーディネート)。「野点」開催場所を探すお散歩会や準備、当日の運営を塾生が行う。この時の塾生の1人に阿部美香子さん(現釜石市民ホール)がいた。川原さんは「野点」当日にお客さんとして参加。</p> <p><b>2013</b> きむらとしろうじんじん「野点」/ASTT事業 10.3 常楽院(大槌町赤浜) 10.6 青葉通り(釜石市大町) 10.9 わらび学園(大槌町小槌) この年から「野点」は、「きむらとしろうじんじんの『野点』in 釜石・大槌」という一つの事業として展開。@リアスの上野さんが野点の現場監督を務める。</p> <p><b>2014</b> きむらとしろうじんじん「野点」/ASTT事業 9.28 みんなの家 かだつて(釜石市只越町) 10.5 大槌北小福幸きらり商店街(大槌町大槌)</p> <p><b>2015</b> きむらとしろうじんじん「野点」リサーチ&amp;アーカイブ/ASTT事業 10.4 大槌北小福幸きらり商店街(大槌町大槌)</p> <p><b>2016</b> ぐるぐるミックス in 釜石/ASTT事業 この年からかまいしこども園での「ぐるぐるミックス in 釜石」がスタート。谷中のおかってがコーディネートし、きむらとしろうじんじんさんと大西健太郎さんが講師を務め、川原さんと上野さんが現場をサポート。 きむらとしろうじんじん「野点」/市民有志主催 10.3 大槌北小福幸きらり商店街(大槌町大槌) これまで「野点」に関わった市民有志がじんじんさんを招いて実施。</p> <p><b>2017</b> ぐるぐるミックス in 釜石/ASTT事業 10月の「ぐるぐるミックス」に阿部さんがボランティアスタッフとして参加。 きむらとしろうじんじん「野点」/市民有志主催 10.1 大槌北小福幸きらり商店街(大槌町大槌)</p> <p><b>2018</b> ぐるぐるミックス in 釜石/ASTT事業 12月、「ほやほや通信」編集長を務めることになる小林が初訪問。 きむらとしろうじんじん「野点」/TETTO主催 9.30 大槌北小福幸きらり商店街(大槌町大槌) ※台風のため、会場を大槌コミュニティプレイスに変更</p> <p><b>2019</b> ぐるぐるミックス in 釜石/ASTT事業 こども園の先生がプログラムの考案から実施まで行う「プチぐる」を全クラスで実施。 ぐるぐるミックス in TETTO/TETTO主催 1.14 釜石市民ホールの阿部さんが企画した「ぐるぐるミックスin TETTO」を開催。スタッフには、これまでの「野点」で出会った地域の方々や、かまいしこども園の先生、地元の高校生などが集まる。参加者には釜石・大槌の子どもたちだけでなく、盛岡から駆けつけた親子も。 きむらとしろうじんじん「野点」/市民有志主催 9.29 桜木町保健福祉会館(大槌町桜木町)</p> <p><b>2020</b> ぐるぐるミックス in 釜石/ASTT事業 新型コロナウイルスの影響で谷中のおかってとじんじんさんの釜石来訪が合わず。全クラスでの「プチぐる」とリモート版の「ぐるぐるミックス」を実施。「ほやほや通信」を発行。 ぐるぐるミックス in TETTO、きむらとしろうじんじん「野点」/TETTO主催 釜石市民ホールの阿部さん企画。コロナ禍により次年度に延期。</p>
--

## 編集後記

「ほやほや通信」03号いかがでしたでしょうか。今号では、東京都が公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京と共催するArt Support Tohoku-Tokyo「東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業」(ASTT)をきっかけに生まれた、人々のつながりと地域での連携を紹介しました。ASTT事業としての通信の発行は今回で終了しますが、これからもこのご縁を大切に、子どもたちの遊びの環境を第一に考えるかまいしこども園のサポートを継続していきたいです。

「ほやほや通信」編集長 小林英治

「ほやほや通信」のバックナンバーがこちらからご覧いただけます。



ほやほや通信 01

ほやほや通信 02

ほやほや通信  
03

発行：2021年3月26日  
制作：社会福祉法人愛泉会 幼保連携型認定こども園 かまいしこども園 (<http://kamaishi-kodomoen.jp>)  
一般社団法人 谷中のおかって (<http://okatte.info>)  
発行元：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京  
編集長：小林英治 アートディレクション&デザイン：大原慎也 (ARROW MARK)  
協力：特定非営利活動法人@リアスNPOサポートセンター / 特定非営利活動法人いわて連携復興センター  
印刷：株式会社 中部共同印刷 お問い合わせ先：一般社団法人 谷中のおかって [contact@okatte.info](mailto:contact@okatte.info)

文化でつながる。未来とつながる。  
THE FUTURE IS ART  
Tokyo Tokyo  
FESTIVAL

ARTS COUNCIL TOKYO

Yamaka-no-Okatte